造影CT検査に関する説明書

長野市民病院

患者　　様

代理人　　続柄（　　）様

予定検査　　検査日時　　年　　月　　日　　時　　分

あなたが現在受診中、または疑われている病気の診断のため、ヨード造影剤を使用した上記の検査が有用と考えられます。造影剤を使用することで、病気の発見やその性質の把握がより正確となり、適切な治療方針の決定に役立つと考えられます。造影剤を使用しない場合でもある程度の診断が可能なことは多いですが、診断が不正確になったり、または全く困難となることもあります。

造影検査では、造影剤を使用しない単純CTを撮像した後、引き続いて造影剤を静脈から注射をして、適切なタイミングでCTを撮像をします。検査に使用するCT装置は、定期的なメンテナンスを行い、扱う技師も細心の注意を払って検査に望んでおりますが、極めてまれに、装置や設定の不具合により、造影検査が不十分で、再検査が必要になることもあります。

造影CT検査の偶発症

1: 造影剤の注入は急速に行うため、刺激で身体中が熱くなったような感覚がありますが、注入が終了すると徐々になくなりますので、心配ありません。また、注射の部位に痛みや漏れを生じることがまれにあります。多量の漏れが生じた場合には、治療処置が必要になることがあります。

2: およそ５０人に１人（2%）の確率で、治療の必要のない軽い副作用として、吐き気や動悸、頭痛、かゆみや発疹などが起こります。

3: およそ２５００人に１人（0.04%）の確率で、呼吸困難、意識障害、血圧低下、ショックといった、重い副作用が報告されています。このような症状が起こった場合に備えて、救急設備や、人員を十分に配置し、症状に応じた最善の処置を行います。非常にまれですが、およそ１０から２０万人に１人（0.0005から0.001%）の確率で、様々な処置や治療にも関わらず、副作用のために死亡することが報告されています。

4: 副作用のほとんどは造影剤の注射直後に起こりますが、まれに３０分から１週間の間に、吐き気や頭痛、発疹などが起こることもあります。多くは一時的ですが、症状が続いたり、心配なときは、病院へご連絡ください。連絡先：長野市民病院　℡ 026-295-1199　各科外来または救急センター

5: 腎機能が低下している場合に、透析が必要な腎不全が起こることがあります。

6: ビグアナイド系の経口糖尿病薬を飲んでいる方に、まれに乳酸アシドーシスという重篤な副作用が起こる場合があります。

造影剤副作用の予測と予防

1: 造影剤による副作用の発生を確実に予測することはできませんが、状況によっては発生する確率が５倍から１０倍くらい上昇することが知られています。

2: 副作用発生の危険性の程度を知る目的で、別紙のチェックリストで判定し、必要に応じて、検査前後にお薬を使用することがあります。

3: また、検査の直前に再度内容を確認させて頂いたり、血液検査を追加したりすることがあり、判定の変更により、造影検査を中止する必要が生じることもあります。

4: 造影剤を使用すべきではない場合（禁忌）

過去にヨードまたはヨード造影剤で治療が必要な過敏症症状の経験がある
重篤な甲状腺疾患がある

5: 造影剤使用の危険性が高くなる場合（原則禁忌）

以下の場合、特に造影検査の有用性が危険性を上回ると思われる場合に限り、偶発症への適切な処置や準備をした上で造影を施行します。

軽いヨード過敏症の経験	気管支喘息	重篤な腎障害	重篤な心疾患
マクログロブリン血症	妊娠中の方	重篤な肝障害	テタニー
全身状態が著しく不良	多発性骨髄腫	褐色細胞腫（疑いを含む）	

6: 気管支喘息や軽症のアレルギー歴のある方は、検査の前日から予防薬を飲んで頂くことがあります。

7: 腎機能が低下している場合、腎不全の予防のため、検査の前後に点滴を行うことがあります。

8: ビグアナイド系経口糖尿病薬を飲んでいる方は、検査前後に一定期間の休薬が必要です。休薬されなかった場合、特に腎機能が低下しているときには、造影検査を中止する場合があります。

検査中は常に看護師や放射線技師が見守っています。緊急対応のための設備や連絡体制も整えて、常に安全な検査を心がけておりますが、何か不明な点や質問がありましたら、遠慮なくご連絡ください。

連絡先：長野市民病院　℡ 026-295-1199　各科外来または画像診断部CT検査室